

## (様式6)

## 公共事業新規箇所評価調査書

評価確定日(平成27年07月23日)

事業コード	H27-建-新-04			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	通常砂防事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防堰堤工・沈砂池工			班 名	砂防・防災班 (tel) 018-860-2518
路線名等	比内沢沢			担当課長名	河川砂防課長 鏡 藤広
箇所名	仙北市西木町上桧木内			担当者名	副主幹(兼) 班長 佐々木 政彦
総合計画との関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	健全な県土保全の推進	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	地震、治水、治山対策等による生命と財産を守る安全な地域づ	

## 1. 事業の概要

事業期間	H28 ~ H31 (4年)		総事業費	2.5億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	○ 砂防堰堤1基 (H=10.0m L=44.5m) ○ 沈砂池工1基 (H=5.2m L=25.0m)						
事業の立案に至る背景	○ 当溪流は仙北市西木町上桧木内地区内に位置し、保全対象として人家6戸、県道321号(緊急輸送道路)、保育園(災害時要配慮者利用施設)、公民館を抱える土石流危険溪流である。平成25年8月9日の集中豪雨により当溪流では山腹崩壊・溪岸侵食が進行し、県道321号に土砂が流出する被害が発生した。当流域内は荒廃が進行し、不安定土砂が堆積しており、豪雨等により土石流が発生した場合、人家・保育園等に甚大な被害が発生する恐れがある。砂防施設を整備することにより、土砂災害から人命・財産を守るため、新規事業箇所として要望するものである。						
事業目的	【主たる目的】 ○ 災害時要配慮者利用施設を保全し、緊急輸送道路確保のため、砂防堰堤工・沈砂池工を整備し、土石流災害から民生の安定を図る。 【保全対象】 ○ 人家6戸 ○ 県道321号(緊急輸送道路) L=400m ○ 保育園(災害時要配慮者利用施設) ○ 公民館						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度以降
	事業費		250,000	10,000	90,000	80,000	70,000
経費内訳	工事費		220,000		70,000	80,000	70,000
	用補費		20,000		20,000		
	その他		10,000	10,000			
財源内訳	国庫補助		125,000	5,000	45,000	40,000	35,000
	県 債		112,500	4,500	40,500	36,000	31,500
	その他						
	一般財源		12,500	500	4,500	4,000	3,500
事業内容			用地測量	砂防堰堤工 用地補償	砂防堰堤工	沈砂池工	
調査経緯	平成25年度 県単砂防事業 砂防流域調査業務						
上位計画での位置付け	○ 第2期ふるさと秋田元気創造プランにおいて、県民の基礎的な生活環境を整備するために県が継続的に取り組むべき基本政策のうち、「県土の保全と防災力強化」に位置付けられている。						
関連プロジェクト等	○ 特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	○ 平成25年8月9日には県道321号に流失した土砂による通行止めの被害が発生しており、本地区における土石流災害の危険度は非常に高く、さらに地元住民の防災意識も向上している。 ○ 本地区と同日には仙北市供養佛地区で大規模な土石流災害(死者6名)が発生しているほか、近年は全国的に土砂災害が多発しており、ハード・ソフト一体となった対策が急務となっている。						
事業効率把握の手法	指 標 名	土石流危険溪流に対する概成率(%)					
	指 標 式	対策済み溪流数/土石流危険溪流数(%)					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無		
	目標値 a	16%	データ等の出典		河川砂防課調べ		
	達成値 b	16%					
達成率 b/a	96%	把握の時期		平成27年 3月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	○土石流が発生した場合、人家のみならず災害時要配慮者利用施設や緊急輸送道路が被災する可能性が高いため、事業の必要性は高い。 ○砂防法第5条により工事の施行は都道府県が行うものと位置付けられている。 ○近年は全国的に土砂災害が多発しており、ハード・ソフト一体となった対策が急務となっている。	27 点
緊 急 性	○平成25年8月には豪雨により土砂流出被害が発生しており、流域内は斜面勾配が急で崩落土砂が堆積しているため、再び豪雨に見舞われた際には土砂流出による甚大な被害が発生する危険性が高く、早急な整備が必要である。	29 点
有 効 性	○ふるさと秋田元気創造プランの施策を直接推進する内容の事業である。 ○施設を整備することにより、土石流災害から人命や財産が守られ、下流域の安全性が短期間に確保される。 ○土石流渓流の整備率向上に直接寄与する事業であり、施策目標への貢献度は高い。	8 点
効 率 性	○事業の費用便益比は3.93であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値2.52億円 ・総便益の現在価値9.89億円 ○事業費は、残存型枠使用によるトータルコスト削減等、詳細設計の各段階においてコスト削減の検討を行う。	15 点
熟 度	○平成25年の本地区や供養佛地区の災害を受け、地元住民の防災意識が高く、合意形成がなされている。 ○仙北市でも土砂災害等への危機管理意識が高く、事業への必要性を認識している。	8 点
判 定	ランク ( ● I ○ II ○ III ) 多くの項目において評価点が高く、住民の生命と財産のみならず災害時要配慮者利用施設等の重要公共施設を守り、県土の保全と防災力の強化を推進する上でも有利な事業箇所であるため実施すべきと考える。	87 点
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当渓流は保全対象に人家6戸、県道、災害時要配慮者利用施設、公民館を抱える土石流危険渓流であり、平成25年度の豪雨により県道に土砂が流出する被害が発生した。そのため、砂防事業の必要性及び緊急性が高いほか、有効性、効率性も高いことから、事業実施の1次評価は妥当である。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該地区は、平成25年度の集中豪雨で土砂流出が発生して、県道321号が通行止めとなった。今後、土石流が発生した場合、人家や保育園等に甚大な被害が発生する恐れもあることから事業実施の必要性は認められる。また、砂防堰堤工において堰堤の設置数や工法を比較し、効果的かつ安価となる設置数、工法を採用するなどコスト削減について検討されている。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画的な実施に努める。
-------------

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所評価  
適用基準名 砂防事業

事業コード (H27-建-新-04 )  
箇所名 (仙北市西木町上桧木内 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	災害発生時の影響(被害想定) 人家戸数	20戸以上	10	7	人家6戸	
		5戸～19戸	7			
		1戸～4戸	3			
		0戸	0			
	公共・公益施設	以下に挙げる公共・公益施設がある	10	10	仙北市立かみひのきない保育園(災害時要援護者関連施設) 県道321号(緊急輸送道路) 公民館	
		災害時要援護者関連施設				
		重要交通(緊急輸送道路、避難路、鉄道等)				
		防災拠点(警察、消防、役場等)				
		ライフライン施設(電力、ガス、水道等)				
	利用者多数(学校、駅舎等)					
公共・公益施設がある	5					
なし	0					
事業の必要性						
県関与の必要性	法令等で県が実施する事業	5	5	砂防法第5条により、県が施工する工事		
県が実施すべき広域的な事業	3					
県が実施した方が望ましい事業	1					
流域の整備状況						
砂防設備の整備状況	未整備	5	5			
低い(土砂整備率30%以下)	3					
低い(土砂整備率30%超)	1					
計			30	27		
緊急性	災害実績					
	過去の災害発生履歴	過去に災害の発生した記録がある	10	10	平成25年8月の梅雨前線豪雨により土砂流出し 県道321号が通行止め	
	過去に災害の発生した痕跡や情報がある	5				
	なし	0				
	災害発生の危険度					
	想定される流出土砂量	1000m3以上	7	7	計画流出土砂量4,145m3	
	1000m3未満	3				
	想定される流出流量	20m3以上	6	3	計画流出流量6.7m3	
20m3未満	3					
荒廃面積	流域面積の10%以上	6	3	(流域面積0.17km2/荒廃面積0.002km2)*100=1%		
流域面積の10%未満	3					
河床堆積、溪岩侵食状況	破砕帯、火山噴出物地帯、花崗岩地帯、第三紀層地帯 その他	6	6	新第三紀層地帯、花崗岩地帯、火山礫凝灰岩		
		3				
計			35	29		
有効性	上位計画への貢献					
	ふるさとあきた元気創造プラン	プランに関する事業である	5	5	プランにおける基本政策「県土の保全と防災力強化」を推進する事業	
		プランとは別の個別計画に関連する事業である	3			
		プラン、個別計画に関連しない事業である	0			
ソフト対策との関連性						
公表周知している情報の内容	土砂災害防止法に係る基礎調査	5	3	土石流危険渓流ランクⅡ		
	土砂災害危険箇所マップ等	3				
	なし	0				
計			10	8		
効率性	費用対効果					
	B/C	1.0以上	10	10	3/C 3.93	
		1.0未満	0			
	事業実施コストの削減					
コスト削減の具体的計画	あり	5	5	堰堤設置箇所と規模の総合的な検討等		
	なし	0				
計			15	15		
熟度	事業着手の熟度					
	地元のニーズ	文書要望あり	5	3	平成25年の土砂流出により地元要望あり(町内会長→建設部(仙北市経由))	
		口頭要望あり	3			
		なし	0			
	関係自治体等との合意形成	合意形成が済んでいる	5	5	地元及び地権者の了解済み	
	合意形成がなされる見込みである	3				
	合意形成がなされていない	0				
計			10	8		
合計			100	87		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		